



教草女房形氣

山東京山著

卷

廿



~ 13
3580
20



門 へ 13
號 3580
卷 明 21 20

刻補冬寅戊治

山東京山著
歌川豊國畫

教草女房形氣

とーえんぶけにようまうかとき

全部二十五編揃
都合五十巻の内

毒婦おてこの談

自廿一編
至廿五編

此讀切と
第五輯と極

浪華書肆

前川文榮閣藏梓

早稲田大學圖書館
35.1.22 購入
書

教草女房形氣廿一編

山東菴京山翁遺州

故人京山翁教草を培く。稗史の鉢植とせしむ。言葉の花
美く實所さても多かれ。年々歳々其蔓繁茂し。既に廿の巻を
重なりし。惜哉翁の遠行有て于粵根を断んとする。錦橋
堂の主人遺憾は想ひ翁の男京水子み託して僥倖は遺草
を得て。僕も補綴せよと。是を花を襪襪と包むの所為あれ
固辞做すを書肆微笑く。不知や驥の尾は附され。蒼蠅も千
里を行よの一言。忽地僕と手を拍て。毫を嘗る緯とあられど。
謾も清流を汚よの譏遁るは穿るらん。

萬延二年酉春開鐫

鶴亭秀賀誌







つぎ半世有る大のあつちをひた表を大地へ
 めつまを玉を皇后おのほふあひ侍女あつち
 はやく披露見玉ふみ皇后のおつちの政事と
 忘れ武をりまれ昼夜溜酒のみつちの玉ふちの
 中も国の亡きまを思ひあつちのあつちの
 善皇后をとりその慈心をとひあつちの
 善皇后の賢女をとり却つて
 尹吉甫を賞し自
 かんじをぬき捨
 衣裳をぬき
 王の前みはる
 ぎを其衣を
 よみと士吉甫が
 ひる尤也皆妻のあつちの
 王の夢あつち早く妻をとりて以後

賢女の
 行ひと悪女の
 行ひとの差別を
 人不知るは
 らる賢女の
 傳をあげて
 些勸善の意
 を含むのみ



淫酒をつてと国を他人ふ奪はる
 ト酒と共ふのりあつちの宣王も又聖王も
 本も心をひらいて皇后と吉甫を大のふ賞し是より
 淫酒をとりて其心をわつちのあつちの方臣鼓腰と
 悦び善皇后の賢女あつちを讀しと
 ちや善難有意も言つて一にふ夫
 との表裏あつち愚の事まを後ふあつち
 巴が氣随ふ楽を極め家藏もあつち
 失を其身のあつちのあつちのあつちの
 親をのり邪見ひらきふ做せしあつちの女房の
 譚のあつちを起しぬるがは教草の第一とまき
 とゆく譬は面は菩薩の如くあつちのあつちの夜
 とまき言つく彼井口の菓子あつちのあつちのあつちの
 より意の美し人を寤の美人の言ぞし

腰をのりあつち
 柳まを
 あつちの
 人
 鶴亭

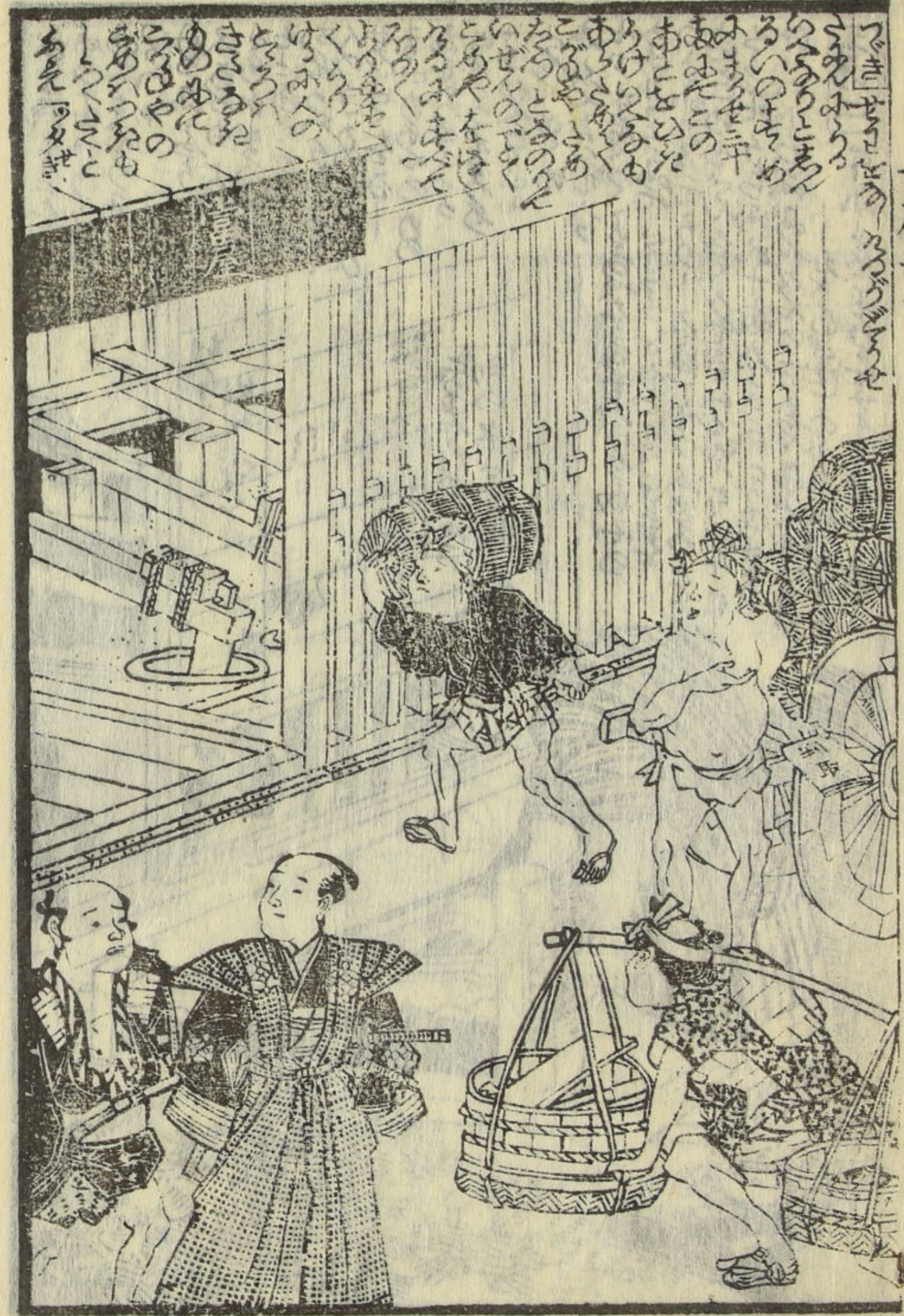






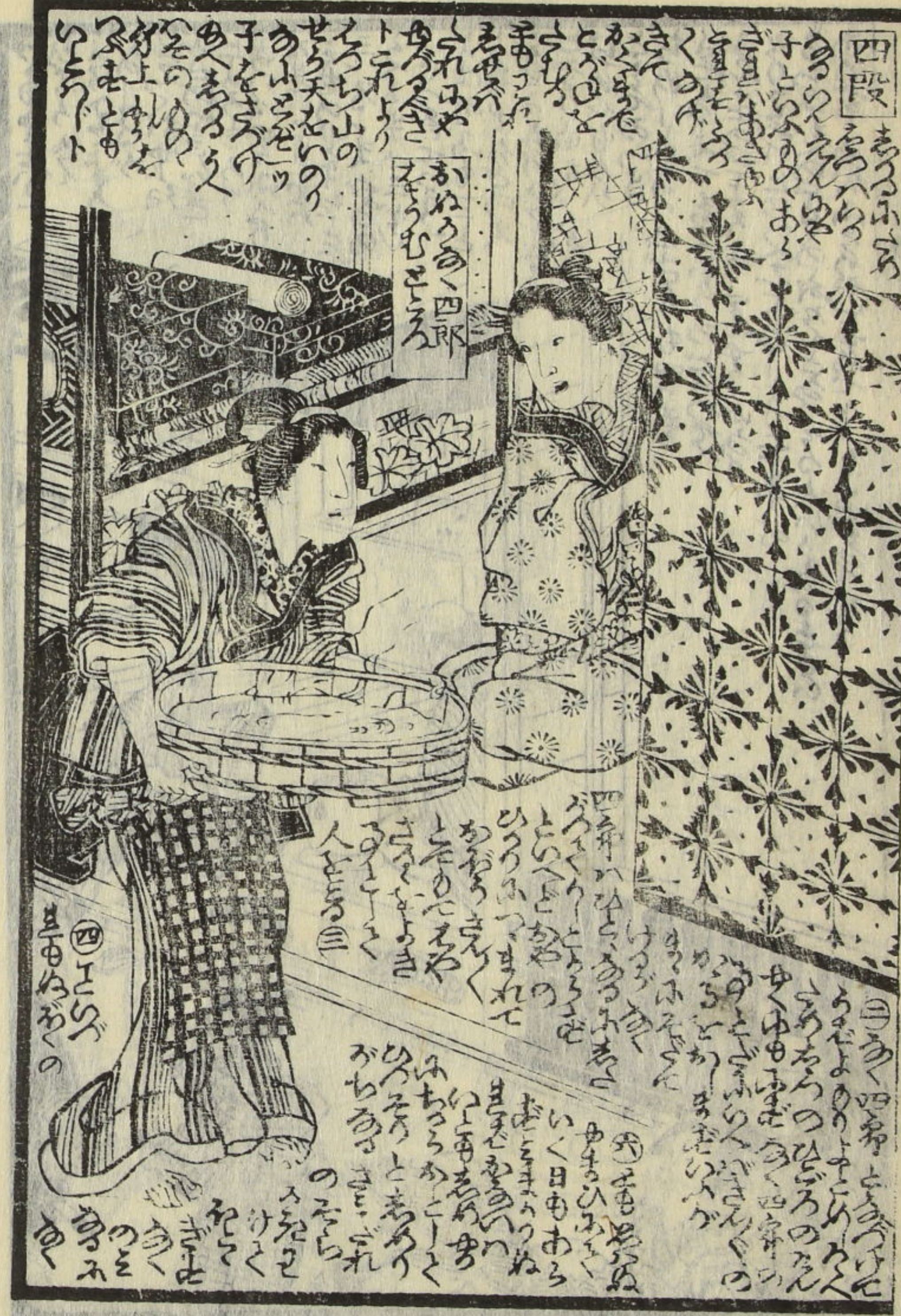
女房廿一
 ちぬいしあつてのびざうりも四十五
 ちぬいしあつてあつちのどろりて入
 まんまのびざうりもまぢりゆめり
 ろのこつてこのいんそつひより下年
 のちぬいしあつてあつちのどろりて入
 ろのこつてこのいんそつひより下年
 のちぬいしあつてあつちのどろりて入
 ろのこつてこのいんそつひより下年

女房廿一



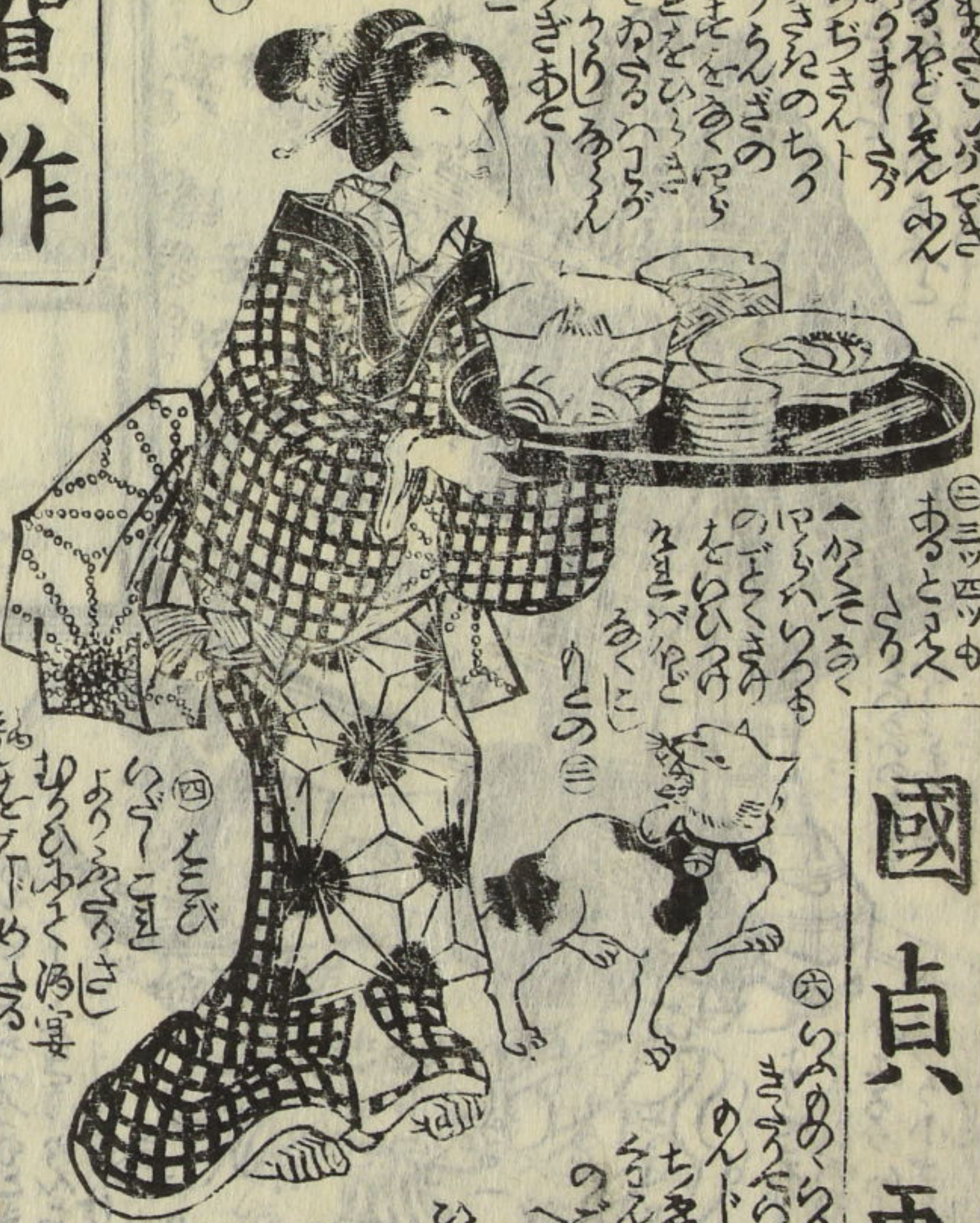
ちぬいしあつてあつちのどろりて入
 まんまのびざうりもまぢりゆめり
 ろのこつてこのいんそつひより下年
 のちぬいしあつてあつちのどろりて入
 ろのこつてこのいんそつひより下年

女房廿一



つきの巻... 朱料... ①

秀賀作

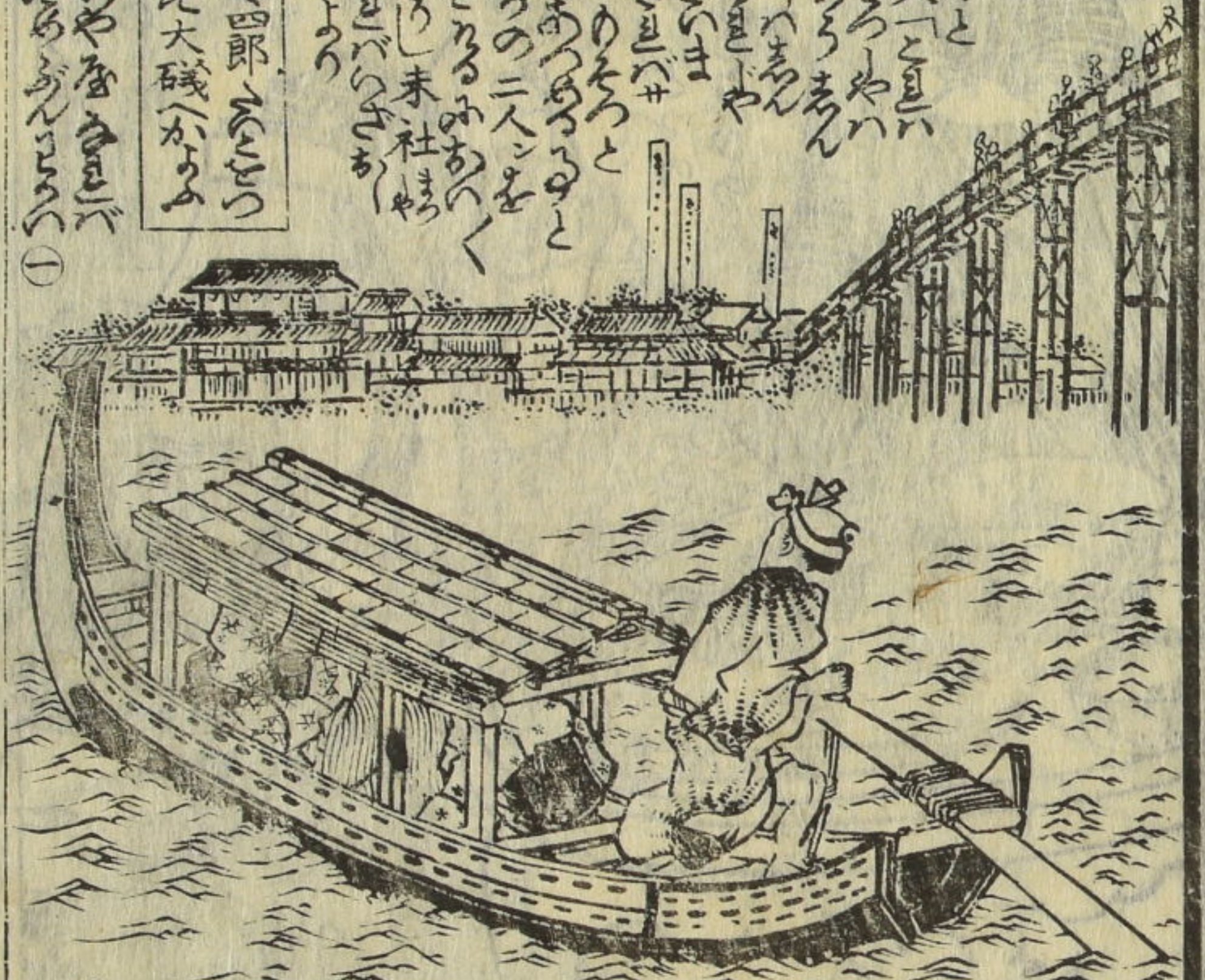


國貞画

①... ②... ③... ④... ⑤... ⑥... ⑦... ⑧... ⑨... ⑩... ⑪... ⑫... ⑬... ⑭... ⑮... ⑯... ⑰... ⑱... ⑲... ⑳... ㉑... ㉒... ㉓... ㉔... ㉕... ㉖... ㉗... ㉘... ㉙... ㉚... ㉛... ㉜... ㉝... ㉞... ㉟... ㊱... ㊲... ㊳... ㊴... ㊵... ㊶... ㊷... ㊸... ㊹... ㊺... ㊻... ㊼... ㊽... ㊾... ㊿... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百

教草女房形
気せ編下巻

七段... 西月樓... ①

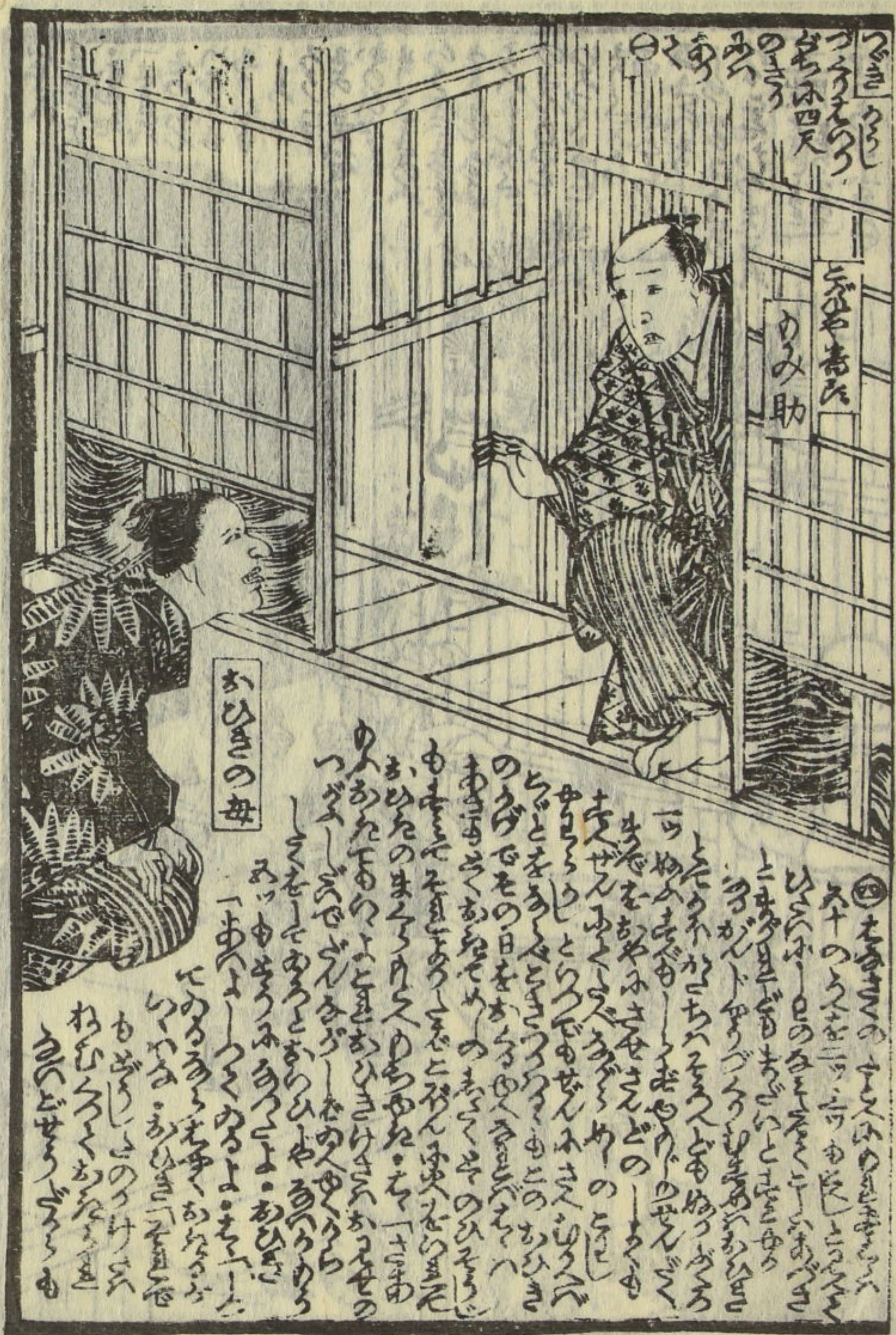


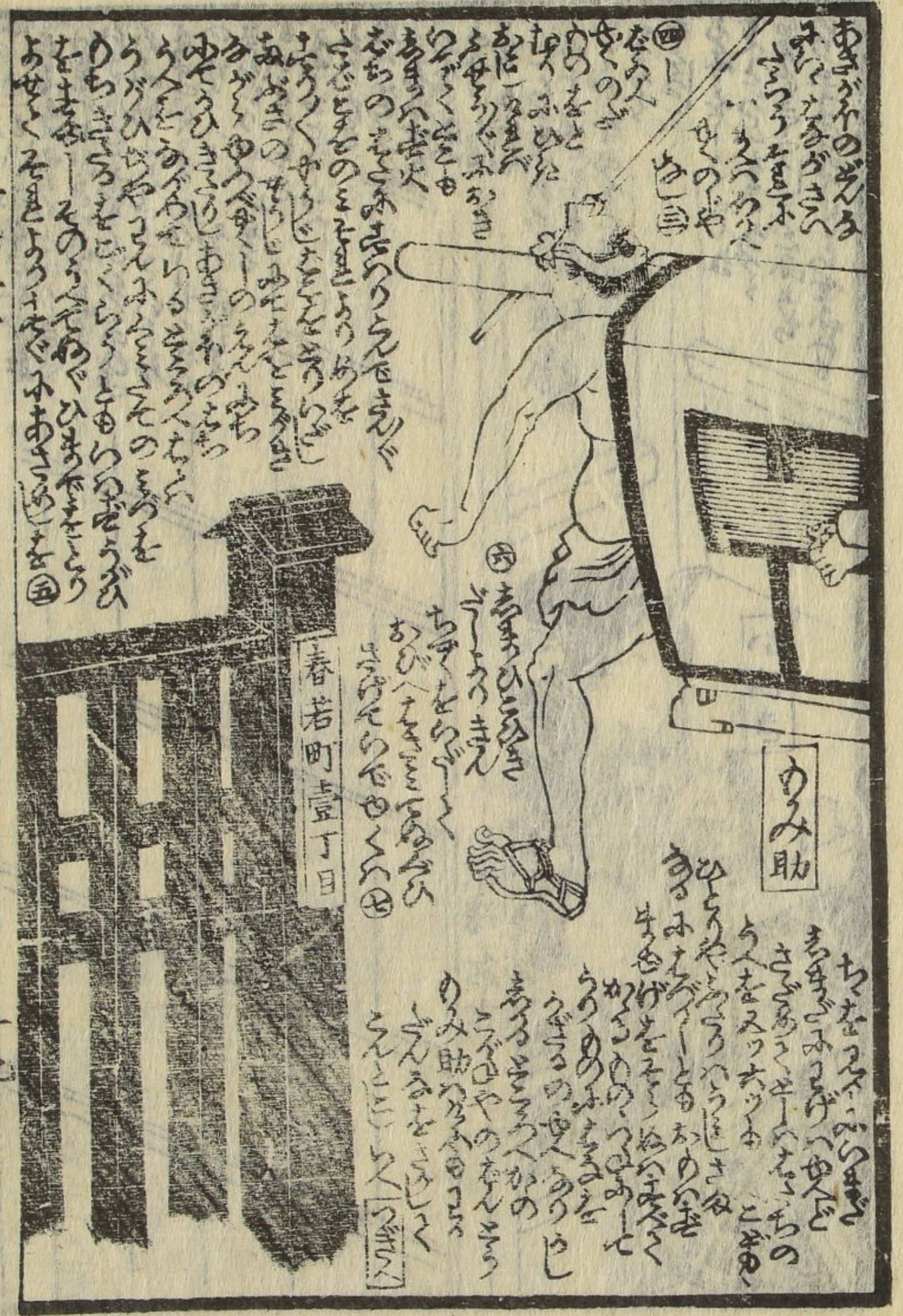
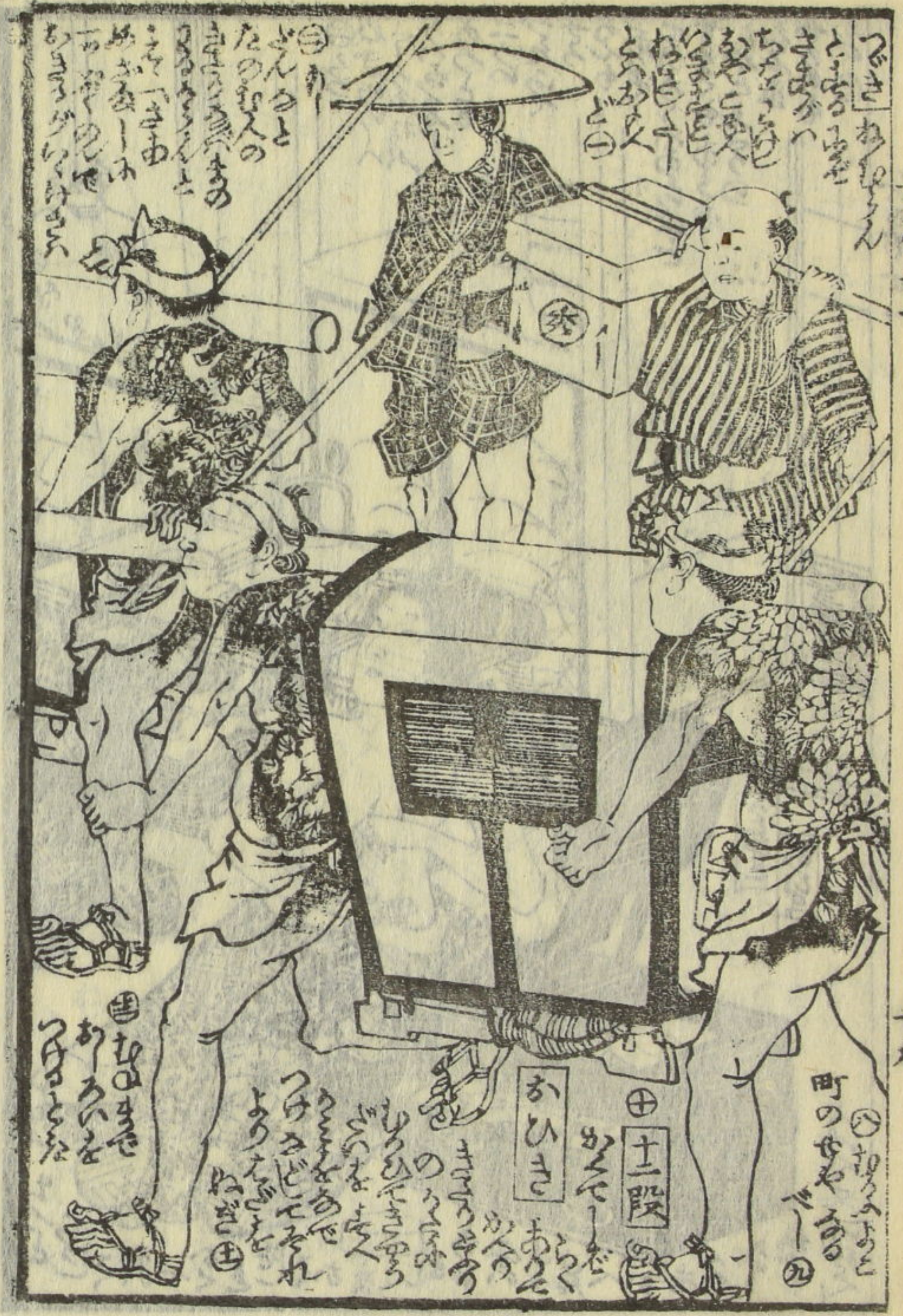
①... ②... ③... ④... ⑤... ⑥... ⑦... ⑧... ⑨... ⑩... ⑪... ⑫... ⑬... ⑭... ⑮... ⑯... ⑰... ⑱... ⑲... ⑳... ㉑... ㉒... ㉓... ㉔... ㉕... ㉖... ㉗... ㉘... ㉙... ㉚... ㉛... ㉜... ㉝... ㉞... ㉟... ㊱... ㊲... ㊳... ㊴... ㊵... ㊶... ㊷... ㊸... ㊹... ㊺... ㊻... ㊼... ㊽... ㊾... ㊿... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百





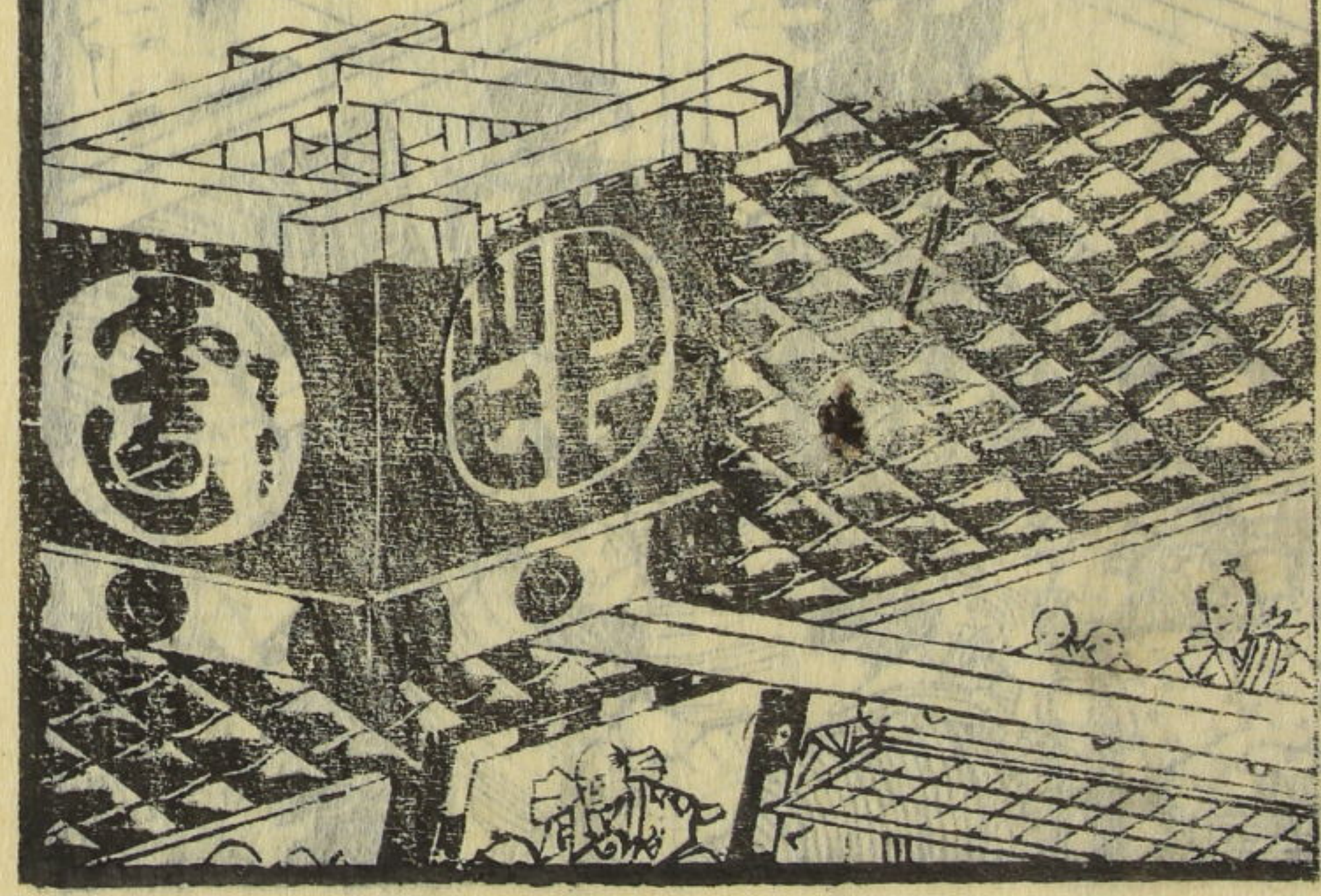






鶴子秀賀補綴
 此書は鶴子の秀賀が補綴したもので、内容は鶴子の書簡や日記などから採られている。内容は鶴子の生活や思想が詳しく記されている。

鶴子秀賀補綴
棋蝶樓國貞画



ウエブストル氏 スヘルリング サレピント氏 第一トドル	獨學 一冊	日本 書記	神代卷 小本一冊
吉田先生著 皇朝戦畧編	八冊	近藤先生著 金銀圖録	杉色 全七冊
学校専用改点 小學素讀本	二冊	兵學之部 横文字獨舊占	全一冊
森先生著 洋算学	二冊	石西洋美術日 新書	全一冊
發兌書肆 大阪心齋橋橋筋 住久寶寺町南入 前川洲入郎様			

右の書籍は、前川洲入郎様よりお出しの旨に、お取り寄せさせていただきます。

重刊水鏡
線裝全
時明源類

水鏡